

大分県長期漁海況予報

〔平成 30(2018)年 1～6 月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部

879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<平成 29 年 8～12 月>

■黒潮

8月はやや離岸、9月は上～中旬は接岸傾向、下旬はやや離岸、10月はやや離岸、11月はおおむねやや離岸傾向であったが、中旬のなかばから下旬の始めはかなり離岸、12月は上～中旬はやや離岸、下旬は接岸で推移した。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、平成(1987～2016年)と比較し8月は「やや高め」、9月は「平成並み」、10月は「やや低め」11月は「やや高め」、12月は「やや低め」で推移しました(図1)。

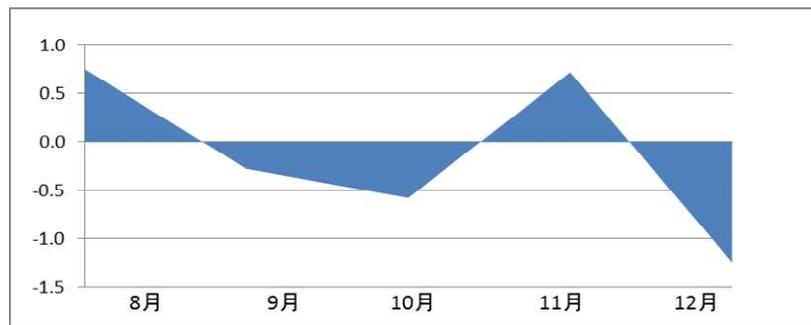


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、平成(1987～2016年)と比較し8月は「やや高め」、9月は「やや高め」、10、11月は「平成並み」、12月は「やや低め」で推移しました(図2)。

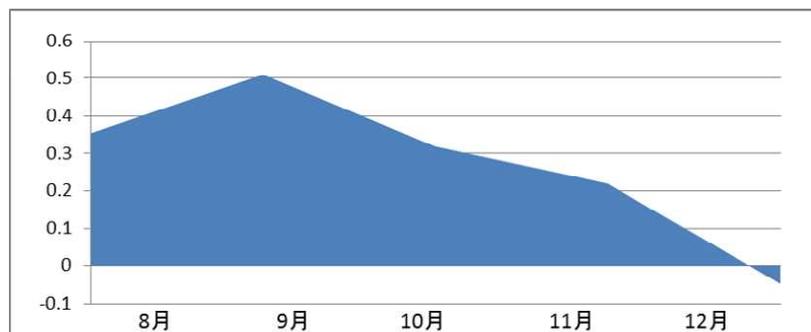


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通し<平成 30 年 1~6 月>

■黒潮

・都井岬沖では、接岸傾向で推移し、5 月頃から離岸するでしょう。

■沿岸水温

「やや低め」～「低め」で推移するでしょう。

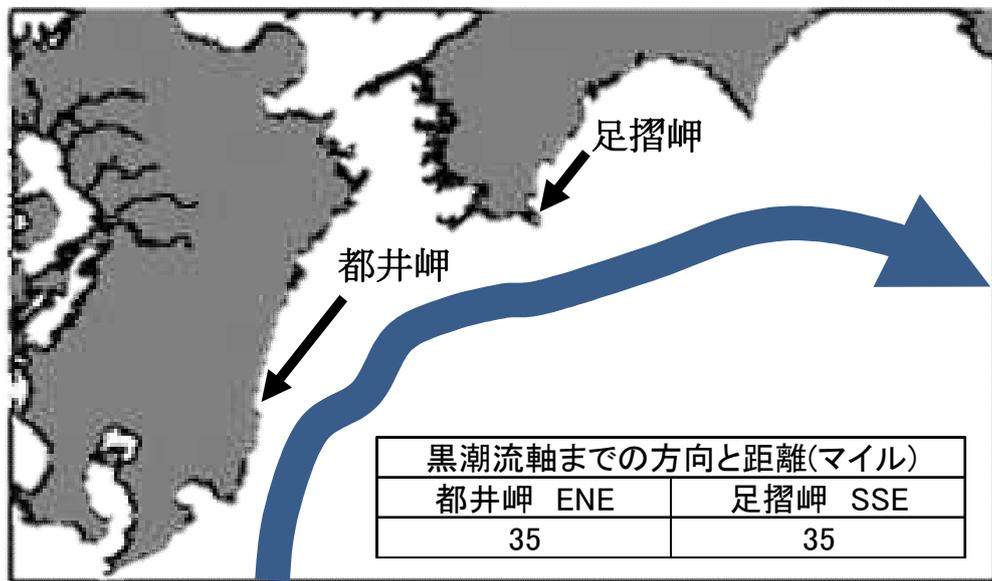
■予測の説明と根拠

・黒潮流路予測は平成 29 年度第 2 回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2017)を参考にしました。

・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられます。福岡管区気象台の平成29年12月25日に発表された「九州北部地方3ヶ月予報」では「低め40%、平年並み30%、高め30%」と予測していることから沿岸水温はやや低め～低めで推移すると思われま。

■黒潮現況

海上保安庁発行の海洋速報によると、現在黒潮は都井岬、足摺岬でやや離岸している模様です。(平成 30 年 1 月 22 日発行第 12 号)



都井岬離接岸階級	0~30	31~50	51~75	76~
	接岸	やや離岸	かなり離岸	著しく離岸
足摺岬 離接岸階級	0~25	26~45	46~65	66~
	接岸	やや離岸	かなり離岸	著しく離岸

図 3 海上保安庁観測による平成 30 年 1 月 21 日現在の黒潮流路

■マイワシ

□2017年7～11月の漁況経過

2017年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は1,853トンで、前年比50.1%、1986～2016年の平均値(以下「平年」という)の比が92.1%と、前年を下回り、平年並みでした。漁獲の主体は被鱗体長^(用語解説①)11.5～13cm(いずれも0歳魚:2017年生まれ)でした。

なお、近隣海域^(用語解説②)では宮崎県は前年の19.0%、愛媛県は前年の21.0%、高知県では前年の約8.3%の漁獲量となっています(愛媛県のみ2017年8～11月、その他は2017年7～11月の漁獲量合計値)。

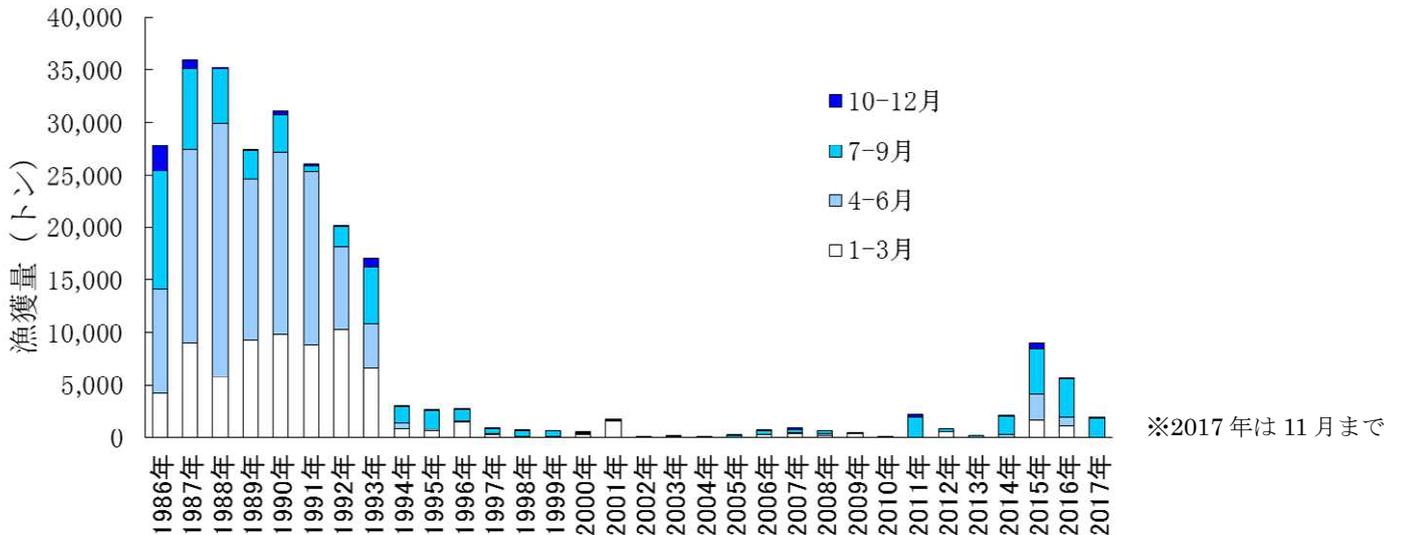


図4 マイワシのまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2018年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2017年1-6月:50トン)



漁獲対象年生まれ及び体長:

1～3月は被鱗体長15～20cm前後の1・2歳魚(2016・2017年生まれ)が主体となり、4～6月は被鱗体長7～12cm前後の0歳魚(2018年生まれ)が主体となるでしょう。

【説明】

2017年4～11月は、0歳魚(2017年生まれ)が主体に1,854トン漁獲され前年を下回りました。(前年比41.2%)。2017年生まれは1～3月も引き続き漁獲の主体となりますが、昨年の漁獲量が少なかったため1～3月の来遊水準は前年同期を下回ると考えられます。ただし、4月以降に獲れる0歳魚(2018年まれ)の来遊水準は、現段階では不明です。

■カタクチイワシ(成魚)

□2017年7～11月の漁況経過

2017年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は616トンで、前年比46.0%、平年比43.1%と、前年および平年を下回る漁となりました。漁獲の主体は7、8月は被鱗体長7～7.5cm前後の0歳魚(2017年生まれ)および1歳魚(2016年生まれ)、9月は4.5～5.5cm前後の0歳魚(2017年生まれ)、11月も5.5～7cm前後の0歳魚(2017年生まれ)主体でした。なお、宮崎県では前年の45.0%、愛媛県では前年の57.0%、高知県では前年の150.1%の漁獲量となっています。

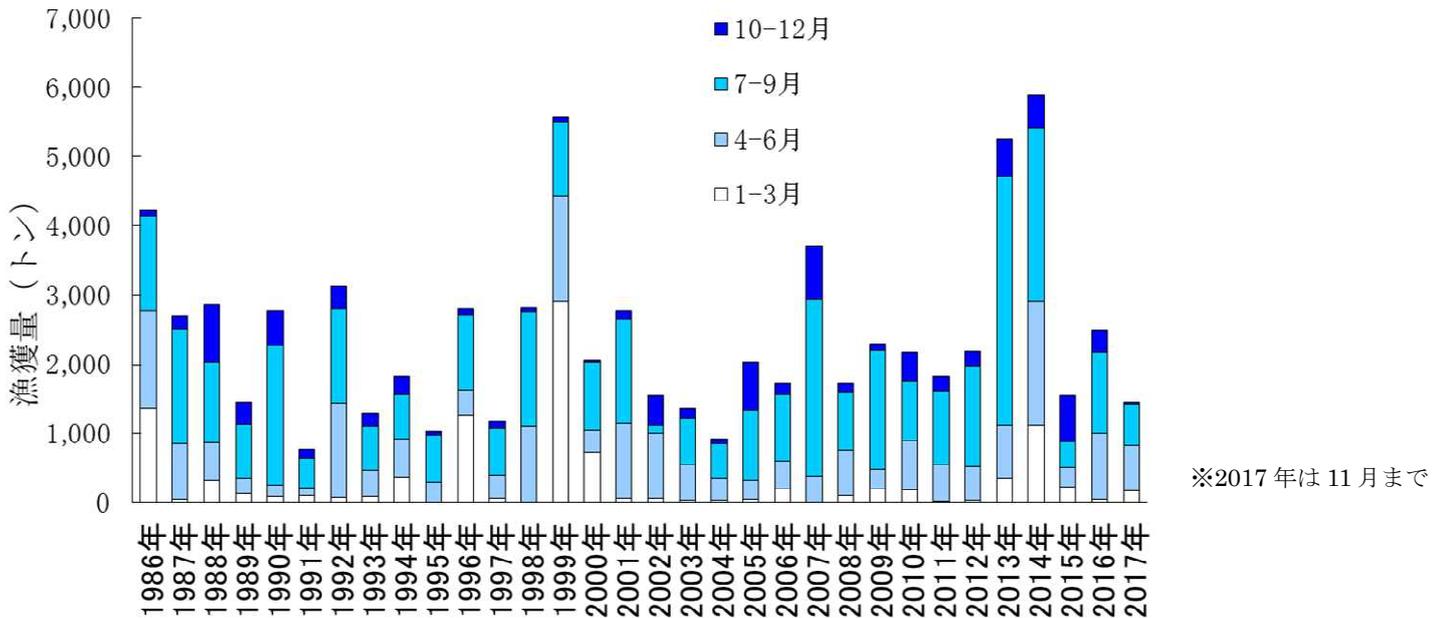


図5 カタクチイワシのまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2018年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2017年1-6月:830トン)

漁獲対象年生まれ及び体長:

1～6月は1歳魚が漁獲の主体となる。

【説明】

例年、1～6月は1歳魚が漁獲の主体となります。2017年生まれ(明け1歳魚)が主体だった2017年7～11月の漁獲量は616トンで前年比46.0%であり、前年を下回っていることから、2017年生まれ(明け1歳魚)の漁獲は低水準で推移することが予想されます。したがって予想は前年を下回るとしました。

■ウルメイワシ

□2017年7～11月の漁況経過

2017年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は1,096トンで、前年比139.8%、平年比124.0%と、前年、平年を上回る漁となりました。漁獲の主体は、9月は9.5～11.5cm前後の0歳魚(2017年生まれ)、11月は11～12cm前後の0歳魚(2017年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の81.0%、愛媛県では前年の72.0%、高知県では前年の98.2%の漁獲量となっています。

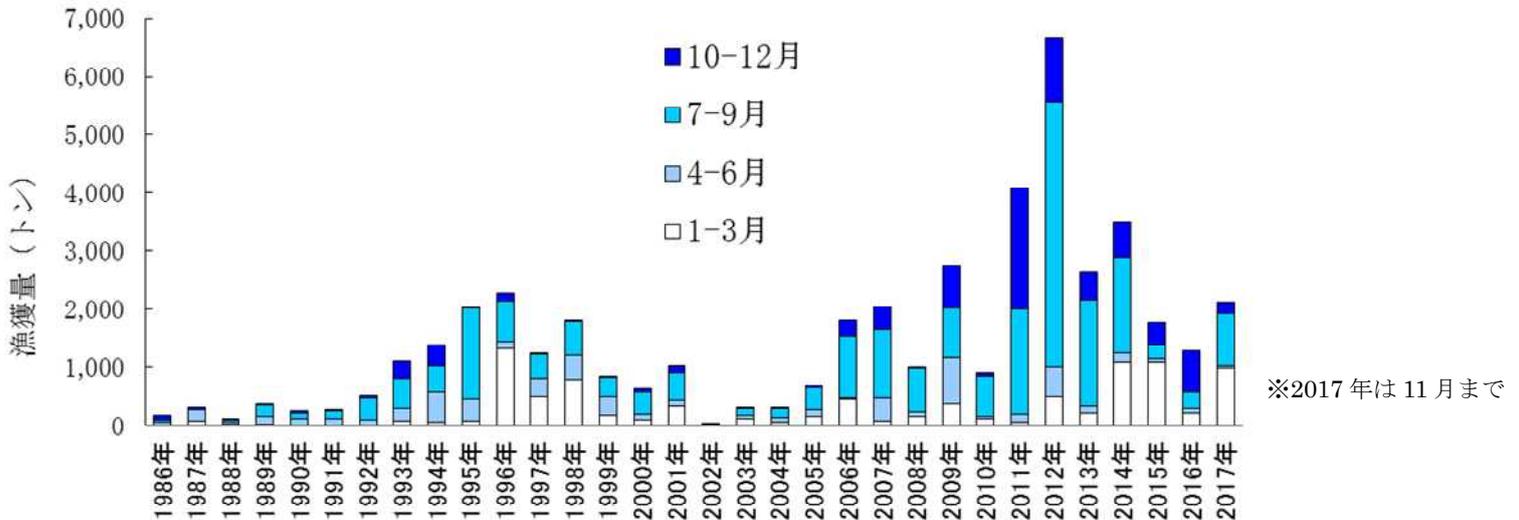


図6 ウルメイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2018年1～6月>

来遊水準:

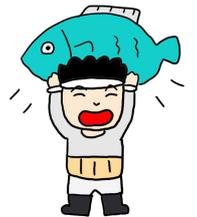
豊後水道南部への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2017年1-6月:1,021トン)

漁獲対象年生まれ及び体長:

1～3月は被鱗体長15～20cm前後の1歳魚が主体となり、4～6月は被鱗体長10cm前後の0歳魚(2017年生まれ)が漁獲の主体となるでしょう。

【説明】

1～3月は2017年生まれが漁獲の主体となると考えられます。2017年生まれが主体だった2017年4～11月の漁獲量は1,126トンと前年同期を上回りました(前年比130.9%)。このことから、予測期間中の来遊水準は前年を上回ると予想しました。



■マアジ

□2017年7～11月の漁況経過

2017年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は922トンで、前年比143.6%、平年比61.5%と前年を上回り平年を下回る漁となりました。漁獲物は、尾叉長^(用語解説③)11.5～13.5cm前後の0歳魚(2017年生まれ)主体でした。

なお、宮崎県では前年の280.0%、愛媛県では前年の264.0%、高知県では銘柄「アジ」が前年の213.8%で銘柄「ゼンゴ」が前年の118.1%の漁獲量となっています。

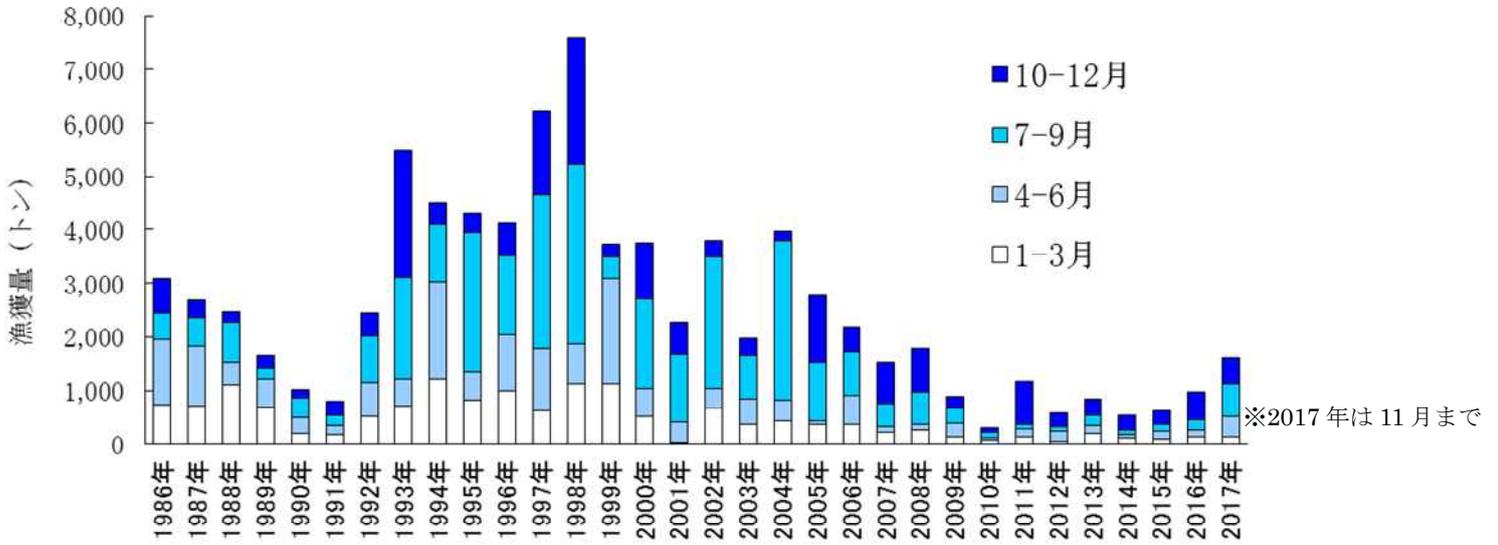


図8 マアジのまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2018年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は低水準ですが前年を上回るでしょう。(2017年1-6月:517トン)

漁獲対象年生まれ及び体長:

尾叉長10～15cm前後の1歳魚(2017年生まれ)が漁獲の主体となるでしょう。

【説明】

1～6月は、明け1歳魚(2017年生まれ)が漁獲の主体となると考えられます。2017年生まれが漁獲の主体であった、2017年9～11月の漁獲量は632トン(前年比123.2%)と、平年を下回るものの、前年を上回る漁獲がありました。このことから、1～6月の来遊水準は平年よりは少ないものの前年を上回ると予想しました。

■さば類

□2017年7～11月の漁況経過

2017年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量は730トンで、前年比439.8%、平年比26.8%と前年を上回り、平年を下回る漁でした。漁獲物は、尾叉長^(用語解説③)17.5～25cmまで幅広く漁獲がありました。例年ゴマサバ主体であるが、9月には尾叉長20～24cm台のマサバ主体の漁獲がありました。

なお、宮崎県では前年の1407%、愛媛県では前年の138%、高知県では前年の82.3%の漁獲量となっています。

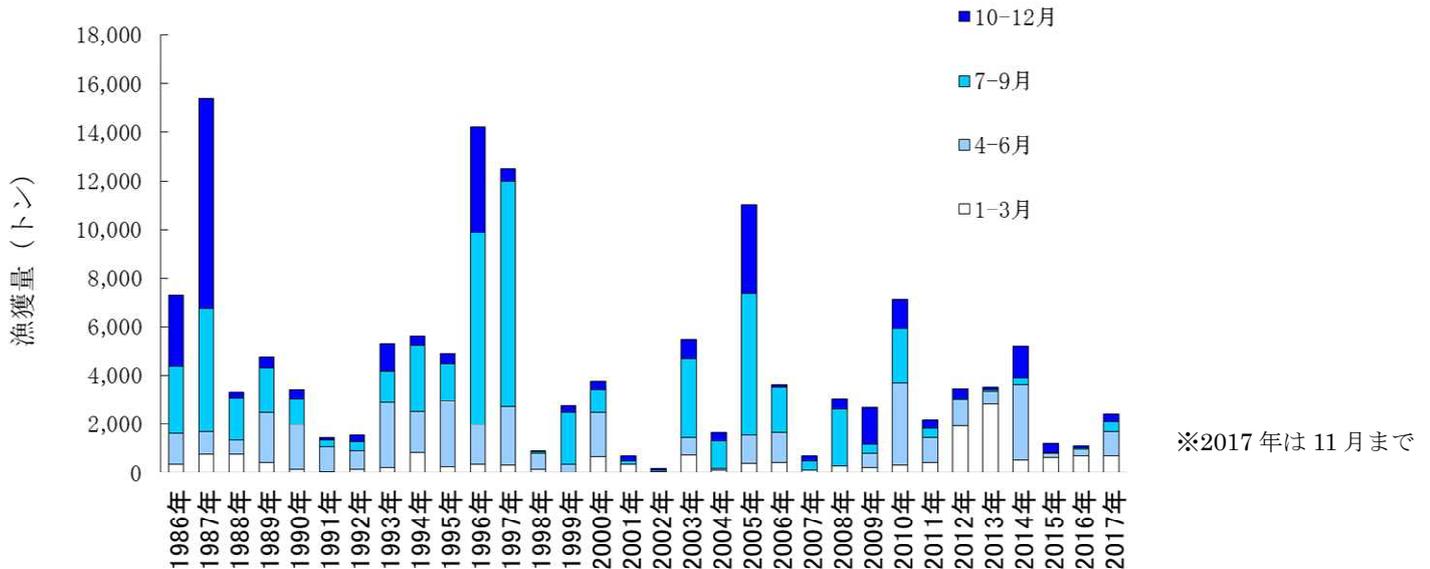


図9 さば類(マサバ・ゴマサバ)のまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2018年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年を上回るでしょう。(2017年1-6月:1,691トン)



漁獲対象年生まれ及び体長:

近年の調査結果によれば、1～3月はマサバ・ゴマサバ1歳魚以上が主体となります。4月以降はゴマサバが主体となり2～3歳魚に0～1歳魚が混じるでしょう。2017年には4月以降もマサバの漁獲も多く見られました。

【説明】

予測期間中は30cm以上のマサバ・ゴマサバ(1歳魚以上)が漁獲の主体となります。2017年の9～11月は0歳魚(明け1歳魚)が漁獲の主体でその漁獲量は587トンであり、前年比510.0%だったことから1～6月の来遊水準は前年を上回ると予想しました。

その他

■予測の根拠および参考資料

・平成29年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2017)

URL: <https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2017/20171225/index.html>

■用語解説

- ①被鱗体長 : 体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域 : ここでは、3県(宮崎県・愛媛県・高知県)の海域とし、高知県の漁獲量の前年比は宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 栽培資源チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156